

令和2年度かいぼり結果概要報告【水元公園：水生植物園】

1. かいぼりの概要

【実施日】 令和2年11月15日

【天候】 晴れ、曇り

【生物調査参加者数】

ボランティア19人・関係者約42人

2. 結果概要

【水質】 かいぼり後、透視度が上昇しSS、T-Pも低下しました。一方で、COD、BOD、T-Nはかいぼり前よりも約2倍近く上昇しました。底泥の除去、天日干しにより、池底への酸素供給や透視度の改善など図られたと考えられます。一方で本池の水が小合溜から供給されていることから、給水時の小合溜の水質に起因すると考えられます。

【水生生物】 かいぼりでは、重要種であるテナガエビ、スジエビ、モクスガニなどが確認されています。一方で、特定外来生物に指定されているカダヤシや、ウシガエルなど多くも確認されているため、今後も池の生物を見守っていく必要があります。

3. 調査結果

水質

項目	単位	令和2年度	
		かいぼり前	かいぼり後
調査日		R2.7.31	R3.2.25
天候		曇	晴
気温	°C	25	8.5
水深	m	—	0.39
水温	°C	24	8
透視度	cm	17	36
ORP(酸化還元電位)	mV	+419	+402
pH(水素イオン指数)		6.8	7.1
COD(化学的酸素要求量)	mg/L	9.7	17
BOD(生物学的酸素消費量)	mg/L	4.3	7.4
T-N(全窒素)	mg/L	0.84	1.68
T-P(全リン)	mg/L	0.103	0.013
DO(溶存酸素)	mg/L	6.1	11.2
SS(浮遊物質)	mg/L	24	10

捕獲した生物と個体数

和名	令和2年度		重要種		外来種 ※3
	かいぼり前	かいぼり時	環境省RL (2020) ※1	東京都RDB (2013) ※2	
	R2.7.20	R2.11.15			
ヒメタニシ	4	301			
マツカサガイ		1	NT	CR+EN	
ヌマガイ		15			
エビノコバン	2	2,000			
カワリヌマエビ属	49	582			○
テナガエビ		13		留意種	
スジエビ	56	281		留意種	
チュウゴクスジエビ	1	4,488			○
アメリカザリガニ	16	84			○
モクスガニ		3		留意種	
ニホンウナギ		2	EN		
コイ		51			○
コイ(飼育品種：ドイツゴイ)	1	1			○
ゲンゴロウブナ		253	EN		○
ギンブナ		435			
タイリクバラタナゴ		2,448			○
モツゴ	8	2,667			
タモロコ	2	51			○
ツチフキ	7	672			○
カダヤシ	21	12,050			○
ブルーギル		53			○
ヨシノボリ属		83			
トウヨシノボリ類	5				
ウキゴリ		2			
カムルチー		66			○
ウシガエル	9	882			○
ミシシippアカミミガメ		2			○



かいぼり前・かいぼり後はサンプリング調査、かいぼり時は全数捕獲

※1 環境省レッドリスト2019 ※2 レッドデータブック東京2013
※3 外来種：人間の手によって、ほかの地域から入ってきた生物のこと